

15. 内航海運の現況

〔1〕事業者の概要

九州は、昔から内航海運の発展が顕著であり、現在でも国内物流において、大きな役割を担っている。

管内の内航海運事業者は、個人事業者を含めた資本金1千万円未満の事業者が、船舶の運航を行う事業で25.6%、船舶の貸渡を行う事業で56.0%にも達し、また、支配船腹量別で見ても、2,000総トン未満の事業者が73.6%を占めている。

登録事業者の推移をみると、船舶の運航を行う事業者及び船舶の貸渡を行う事業者とも、減少傾向である。

〔2〕内航海運の輸送実績

我が国の内航海運は、国内貨物輸送量(トンキロベース)の約4割を占め、特に基礎産業物資(鉄鋼、セメント、石灰石等)輸送の約8割を支える基幹的輸送モードであり、国内物流の大動脈として重要な役割を果たしている。

九州を発・着地とする内航海運の輸送量は、平成3年度に1億9,800万トンを記録したのをピークにその後の景気後退を契機に減少しており、平成30年度は1億2,528万トン(発量7,851.1万トン・着量4,676.4万トン)となっている。これらの貨物の品目別内訳は、九州の産業構造の特色から、石灰石・セメント・鉄鋼等の素材生産部門の貨物が主となっている。

(平成31年3月末現在)

区分	内航海運事業者数(登録)		合計
	船舶の運航を行う事業者数	船舶の貸渡を行う事業者数	
九州	125	275	400
全国	634	1,280	1,914
対全国比(%)	19.7	21.5	20.9

(注)1. 兼業者については、船舶の運航を行う事業に計上。

2. 休止事業者を除いた事業者である。